定家卿家（ていかきやうのいへ）〔二条の北京極の西なりとぞ。和歌家伝曰、為家卿の後二流となる、為氏（ためうぢ）卿を二条家と号し、為相卿を冷泉家と号すると云云〕

拾遺愚艸　宿からそ都の内もさびしきは人めまれなる庭の月かげ　定家卿

定家卿はやう住ける家にしばし立入てほどへ侍るおりから、

かのみづから植て侍ける梅の木の枝に結びつけゝる

風雅　忘れじな宿はむかしに跡ふりてかはらぬ軒ににほふ梅がえ　永福門院内侍

つれ〴〵草云　京極入道中納言はなをひとへ梅をなん軒ちかくうへられたりける、京極の屋の南むきに今も二本侍るめり〕

白山社（はくさんのやしろ）〔白山通押小路の南にあり。祭神加賀（かが）国白山権現（ごんげん）なり。むかし治承の頃、白山の大衆内裏に強訴の事ありて思ひのまゝならざりしかば、神輿（みこし）三基を振て此所に捨置けり。叡山（えいざん）の例に效ふてこれを神輿振（みこしふり）といふ、即ち勅ありて勧請しけるなり。当町を上白山、御池の南を中白山、姉小路の南を下白山といふ〕

布袋薬師〔白山通二条の北にあり。本尊薬師仏は聖徳太子の作、坐像九寸五分、実は菩提薬師なり、ぼだいの仮名の字形を見謬てほていと云ならはしける。則此所を布袋町といふ。古へは大和国宮田郷広瀬にあり、桓武帝の御時此京にうつす、今天台宗利生院と号す〕

紫式部家〔京極正親町の南なりとぞ。河海抄云、紫式部の旧跡は清和院正親町の以南、京極の西頬、今の東北院の向なりと云云〕

常盤井〔拾芥抄曰、春日の南京極の西、太政大臣実氏公の家にありと云云。増鐘云、正元元年おほきおとゞも入道し給ひぬ、常盤井とて大炊御門京極なる所におり〳〵住給ふ〕

名　寄　見る月もやどかる人も跡ともに千年住べき常盤井の里　後嵯峨院

後拾遺　やがて我心ぞうつる常盤井の水に宿れる月ならねども　少将内侍

天満宮〔丸太町通京極のひがし北側にあり、菅家高辻殿の御鎮守なり〕

奉先の額〔摂政九条殿下尚実公の御筆なり、当社の門に掲る〕

遣迎院〔京極通中御霊の北にあり、宗旨は四宗兼学にして、廬山寺、二尊院、般舟院、当院これを四箇の本寺といふ。開山善恵上人、宝治元年十一月廿六日入寂し給ふ、七十一歳〕

本尊二尊仏〔釈迦弥陀共に安阿弥の作、立像三尺許、遣迎の号こゝに起る〕

元三大師像〔自作坐像、一尺七寸〕**雲水井**〔客殿の巽にあり、此地いにしへは東北院の方境なり、其内にありし井なり〕

光了山本禅寺〔京極通石薬師御門の南にあり。法華宗勝劣派。開山日陣上人、応永十三年に当寺を建立し、同廿六年五月廿一日入寂す、八十一歳〕

立像釈迦仏〔金銅長一尺許、日蓮上人の念持仏。初は江州水穂の立像寺にあり、後世こゝにうつす。当寺は十六ケ本寺の一員にして、旧地は四条堀川なり〕

安禅寺〔同街石薬師御門の南にあり、真言宗。本尊愛染明王、弘法大師唐土より随身の尊像なり。脇壇左不空羂索観音、右不動尊、共に弘法の作。当寺中興大僧都尭恵上人〕

神明社〔塔之段薮下町にあり。祭神伊勢両宮行事官の御鎮守なり。伊勢両宮御遷宮の時神器かず〳〵此家より調進す〕

梶井天満宮〔京極中御霊の東、梶井御門跡の御境内にあり、初は北の方御門前の側にありしが近年こゝにうつす〕菅贈大相国太宰権帥に貶任ます時、天台の座主法性坊尊意多年御交り深かりしかば比叡山より下られ、せめて御遺賜に御姿をとゞめさせ給へと所望ありけるゆへ、鐙容といふ御秘蔵の硯に墨すり流させ、千万緒の御心をこめて筆を取せられし画像に、かの硯を取そへなくなく僧正へ伝へ給ふ。御硯は梶井御門跡の宝庫に伝り、御神像は御境内の社に蔵給ふ。〔世に菅家の御神像多くありといへども、当社の尊影は希代にして賞せずんばあるべからず〕